

第15回全日本ユース(U-15)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2022/12/27】

この試合のプレー集計

準決勝

群馬県選抜

8	3	—	2
	2	—	2
	2	—	4
	1	—	3

11 石川県選抜

PSO

審判： 潮崎 正一
中村 友美

群馬県選抜	21	SH数	19	石川県選抜
	4	速攻数	6	
	6	ST・SB	8	
	8	SH・P誘発アシスト	8	
	15%	GK阻止率	56%	
5	EX反則数	7		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

群馬は第2回、第5回大会での準優勝以来の上位成績を狙う準決勝戦。対する石川は第5回大会で群馬を破って優勝した実績を有する強豪同士の一戦。群馬は中学生ゲームリーダー⑥齋藤を軸にプールを幅広く使った展開水球が持ち味。石川は高校生の②名倉、中学生の⑤水浦を軸にした速攻中心の水球で挑む。両チームともにディフェンス面でのミスが少ないだけに、攻防の転換が勝負の行方を左右する。

【1P】

石川が群馬のディフェンスミスを突いて、⑥松野が先制点をマーク。しかし群馬もセンター⑦関口で退水を誘発してそのまま決めて同点。すぐさま、群馬の速攻を⑥齋藤が決めて逆転。しかし石川も右サイドから③高橋が決めて追いつくという拮抗した展開。石川のパスミス突いて群馬⑩須賀が突き放す。石川は群馬の攻撃を早めに対応することで接戦に持ち込んでいる。群馬は得意の幅広い展開水球を封じられている第1ピリオド(群馬3-2石川)。

【2P】

石川の退水攻撃を防いだ群馬が、ボールを左右に散らして、⑫星が左サイドから決めて4点目。群馬のオフense反則から石川が泳ぎ、⑫前田が決めて1点差に。群馬⑦関口がセンターでペナルティを誘発して追加点を奪い、徐々に群馬ペース。しかし、群馬の退水攻撃でのシュートをGK①奥村がブロックしてから石川③高橋の速攻SHが決まり、再び1点差に。その後はお互いに退水を奪うも、しっかり守り切って、前半を群馬5-4石川で折り返した。

【3P】

ピリオド開始からセンターで群馬⑦関口が決めるが、すぐさま石川も退水を奪ってゴール前の⑤水浦に合わせて点差を戻す。ここから双方の泳ぎ合いからの攻防が続く、石川の速攻SHを防いで群馬⑥齋藤が飛び出して退水を奪ったところで勝負のタイムアウト。そこを右サイドの2枚左利きが功を奏して⑩須賀が決めて突き放しにかかる。しかし石川も③高橋がセンターで決めて追いつくという展開。ここから石川の泳ぎが上回るようになり、群馬ディフェンスが後手に。速攻から⑤水浦がトップ位置で、さらに②名倉の6mSHを決めて、ついで石川が逆転(群馬7-8石川)。

【4P】

群馬の退水攻撃を防いで石川の速攻。そこで右サイドの⑦中村が6mSHで2点差に。群馬は得意の展開パターンに持ち込まず、スタンディングでの攻撃に限定されているという展開。何とか攻略の糸口をつかみたい群馬は、左サイドのドライブに合わせた⑩須賀のパスで⑫星がペナルティを誘発して点差を詰める、石川は群馬のシュートミスから2人が泳ぎ、群馬のマークを翻弄させて③高橋が決めて2点差。群馬のゲームリーダー⑥齋藤が最後尾で釘付け状態となったことで、群馬はパスが回らず単調なシュートミスの連続。そこを突かれて退水→タイムアウトから決定的な11点目を石川⑤水浦が奪って試合終了。

石川は我慢強くディフェンスからの泳ぎで群馬に圧力をかけ、それが失敗しても群馬側の攻撃リズムを形成させなかった展開に持ち込んだことが勝因。群馬は序盤から今一つボールが幅広く展開できず、中心ラインの攻撃が多くなったことが後手に回る原因。それだけ石川側が群馬を上回るディフェンスができていた。石川は第8回大会以来の決勝進出を決めた。